

令和3年度第2回 山梨県教員育成協議会

I 日時：令和3年10月19日（火）午後1時00分～午後3時00分

II 場所：山梨県防災新館 教育委員会室

III 出席者

委員 10人（敬称略）

小田切教育次長、古家山梨大学教育学部学部長、長谷川山梨大学教育学部附属教育実践総合センター長、池田山梨県立大学教授、廣田都留文科大学教授、永田山梨県市町村教育委員会連合会会長、堀川韮崎市教育委員会教育長、竹川山梨県公立小中学校長会会長、永田山梨県高等学校長協会会長、若林山梨県特別支援学校長会会長

事務局 17人

教育監（義務）、教育監（高校）、理事、次長（総務課長事務取扱）、働き方改革推進監、義務教育課長、高校教育課長、高校改革・特別支援教育課長、保健体育課長、総合教育センター所長、義務教育課人事管理監、高校教育課指導監、総合教育センター次長、総合教育センター研修指導課長、総務課課長補佐、総務課主幹、総務課主査

IV 傍聴者などの数 1人

V 会議概要

1 開会

2 教育次長あいさつ

3 報告

（1）第1回教員育成協議会の概要について

事務局

資料に基づき、説明

（2）教員の養成・採用・育成に係る取組の進捗について

事務局

養成部会の資料（P6～9）に基づき、説明

委員

9ページの②ICT教育研修機会の提供の中の2つ目の黒ポツの中に、授業の動画等を授業担当者に提供し、大学で活用してもらうことが可能かどうかという記載がある。これについては新免許法の改正で、「各教科におけるICTの活用の事例を、学生たちが考える場を設けるように」と言われているので、大学としては本当に前向きに受け止めたいと思う。また、③の期間採用教員の研修機会の検討については本当にありがたい。また追って話し合いをさせていただければと思っている。

事務局

大学と連携を取りながら、ぜひ役に立てるように進めてまいりたいと思う。

委員

9ページの今後の養成部会の取組の①の丸の2つ目の最後のところにある、大学生が求めるボランティアと小中高で受け入れ可能なボランティア。私は小学校の教員であるが、今年度、昨年度の様子を見ると学校現場は大変人手不足であるので、本当に手伝ってくださる方が一人でも多くいればという学校も多いと思う。ぜひ、大学生にとっても学校現場にとっても、有効に活用できるように、取組を進めていただければと思う。

議長

ボランティアは非常に有効であるという意見だったが、事務局から何か追加で説明することは。

事務局

現在どのようなボランティアを求めているのか、受け入れができるのかといったことが県教委としても整理できていないので、きちんとまず整理をして対応していきたいと考えている。

委員

私も教育ボランティアについてもっと進めていければとすごく感じている。学校側も来ていただくことで助かるという面がある。私も以前いた学校で、受け入れた学生さんに一生懸命取組んでいただいた。学校現場が大変で忙しい中、ここにある（掲げられている）目的が教員の魅力発信というところもある。そういうところも含めながら、どういう形でやれば魅力発信につながり、学生たちが教員を目指そうと思っていく、その体系に不安があるのかということ、何か形を作っていただけるとありがたい。特に高校については、なかなか進んでいない状況があるので、いろいろあるかと思うが、ぜひお願いしたい。

議長

さらなるボランティアの活用ということ。特に高校についてという意見ですが、事務局から回答は。

事務局

検討を進めてまいりたいと思う。

委員

9ページの③期間採用教員の研修機会について、大変ありがたいと思う。期間採用の教員が知識の面で足りない部分があると感じる面も学校現場にはある。そういう方に研修の機会を与えていただくことが大変良いと思う。そこで、1点。期間採用をやられている方、特に若い方というのは、採用試験を受けていくぞという気持ちがある方。目指している方々にとって、役に立つ研修内容であればあるほど、熱が入ってくるとか、参加できるとか、そういうところも何かしらできたらよいのではと思っている。

議長

採用・人事部会、これについて何か。

事務局

期採の先生方には学校の大きな戦力としてがんばっていただいているというところは受け止めており、本当になくってはならない存在である。ただ、選考においては期採をしているということが他の者に対して大きく優位に働くということは制度上できない。しかし、本県の選考検査の中に、「本県の期採等を実質2年務めた実績がある受験者には、一次検査において一般教職教養を免除する」といった制度も確立している。今後ともそういったものも活用していただきながら、期採の先生方にぜひ選考検査のほうを受けていただいて、成果を発揮していただけるように、また研修ともうまく連動させながら進んでいけばよいと思っている。

(2) 教員の採用に係る取組の進捗について

事務局

採用・人事部会の資料（P10～13）に基づき、説明

委員

人材確保に関して、2つの柱があると思う。

1つは、教員の魅力発信。もう1つは、働き方改革をきちんと進めていくということだと思う。資料を見ると、学生の質問において、最初に出勤時間とか休日出勤のこととか書いている。加えて学校＝ブラックということがかなりあると思う。実際に働き方改革が進んでいるとも思う。進んでいるということと、これからきちんと進めていくことを魅力発信と同時にやっていかなきゃいけないと思っている。12ページのところでそのことについても詳しく説明して下さったが、そのところを本当にやっていかないと人材確保というところでは大きな課題になると感じている。

それからもう1点、養護教諭の確保について、本当にこれも喫緊な課題で当市も非常に苦慮した問題となっていたので、ぜひ進めていただきたいと思う。

議長

学生さんの意見もかなり労働条件のところによく質問が寄せられている。そういうところは関心事だろうと思っている。事務局より働き方改革について何か。

事務局

学生のこういう（働き方に対する）意見を聞く中で、改めてこれから教員を目指す若い人たちが学校における働き方改革を望んでいて、私たちの世代が行ってきた働き方から新しい働き方を少しずつ作っていくことが、やはり求められているということを改めて感じている。新しい取組の方針を今年の3月に策定して、令和3年度から4年間にわたる取組を始め、新取組方針での働き方改革をスタートさせているところである。学生のこういう声も受け止めながら働き方改革を推進し、また進めていることを学生向けの説明会でも発信したり、チラシ等で周知したりということをしていかなければならないと改めて思っている。

議長

もう1点、養護教諭の確保。ここに書いてある健康科学大へのアプローチというところを始めている。

委員

山梨の魅力、教員の魅力ということに関わって。この7月、8月に知事の自己肯定感を高めるという懇話会が4回ほどあって、出席をした。さまざまな分野の方々と、「山梨県の魅力は〇〇である。そしてそれを高めていくことによって、県民全体の自己肯定感が高まっていく」ということを意見交換させていただいた。大変有意義な会であった。県の進めるそういった取組と合わせ、山梨県魅力を育てるためにあなた方は魅力ある職業に就くのですよという意識が持てるよう、県の施策や広報とリンクさせて進めることも、その魅力発信につながっていくのではないかと思う。

議長

委員から説明があったとおり、山梨県の子どもたちは自己肯定感が高く、全国トップレベルにある。しかし、なぜか大人になるにつれ、薄れていっているのか、あまり表に出てこないところがある。そこを学校よりもっと広い範囲で、大人になってからも自己肯定感を保ち続けて郷土に対する貢献をしていくというところを、実は県の施策としてやり始めたらどうかという懇話会がある。委員はそこに参加いただいたので、今の意見になっております。引き続き学校としては、自己肯定感を高めるところは続けて取り組んでいくとは思いますが、県全体への動きにも教育関係の動きが及んでいるということをご承知いただきながら、県の施策としてぜひ取り組んでいきたいと思っている。

事務局

本県の子どもは自己肯定感が高いという傾向が出ています。これが山梨県の大きな魅力であるのですが、私も他県から来て、今、こうして働かせていただくと、山梨の魅力として地元の人にはなかなか気付いていないけれども良いところというのがたくさんあって、山梨県の地元の皆さんは、その中にいつも囲まれているためか、その良さに気付いていないのかもしれないと感じている。教職の人材確保という面では、県内の学生さんに教員になってというアピールの仕方と、また県外では、学生や山梨にUターンをすることを考えている先生方に、やはり自然に囲まれているとか、職場環境の面で首都圏の職場環境と山梨の環境とはまた違うとか。自己肯定感が高い子どもたちに向けて教えることができる楽しみもあるよとか。そういう山梨の魅力を別の形で伝えることによってPRすること、これからは重要なのではないかと思う。そういったところはこれまでも説明してきたと思うが、皆さんにとっては、これっていつも当たり前だよねというふうに思っているのかもしれない。そこに実は非常に大きな山梨としての強みが隠されていると思うので、そういったところを見つめ直してPRすることも大事ではないかと思っている。こういったあたりも含めて、皆さまのご意見をいただきながらPR活動につなげていければと思っている。

委員

学校に採用されて就職した。だけど思っていたのと違うよと思うかもしれない。個人的な問題と学校のイメージの中に自分がどういう立ち位置にいるのかとか、自分はどういうことをすれば、喜ばれるのかと。

さっきこのくだりはいい。山梨の子どもたち、教職員をめぐる現状（喜びとやりがい、大変さと困難さ）先生になりたいと思う気持ちの大切さ。もっと言えば教師としての誇りを持つ。やはりそこにも目を向けなきゃ駄目だと。

私にも経験がある。採用辞令をもらって行って、ぼつん。それこそ学校へ行く前。行ったときに、最初のその出会いがどういう出会いなのかということは非常に重要だと思う。そのずれが大きいと、教師に対する魅力・誇りどころじゃないと。そこから崩れちゃうということがありますから。

1つのメリットはやはり制度で守られているということでもいいのではないかな。これは大切なことですよ、生きていく上では。そういうことだって大変魅力があるが、もう1つはもっと魅力があるのは職場。職場にどれだけの魅力があるか、あるいはどういうことが私の教員になった気持ちと触れ合ったり、重なったりするのかというところが肝心ではないかと思った。

先ほどの話はとてもいいと、私は思った。やはり環境がいい、自然環境も含めてですが、人間環境もいいということになれば働く気になるのではないかな。明日の朝、学校へ行きたくなる。つまり職場がいいから。そうすると、これは新しくなる教職員だけではなくて、教育に携わっている人々が全て、いわゆる学校づくりとか環境づくりをしなければ駄目だろうと。みんなが努力しようじゃないかということに目を向けて視点を当て、これができるね、あれができるねということも、外側のフォローでもいいので、そういう視点をのせるのもすごく大事かと。

もっと言えば迎える側だってあるわけですが、行くだけでなく。迎える側の心構えあるいは環境づくりがちゃんとできていなければ、せっかく先生になったのに、もう辞めたいよ、もう嫌だよということにならないようにするために、そういうことも大事じゃないかと感じた。

議長

委員のおっしゃりたいことは、やはり教員一人一人が、自分が教員になろうというところ。なるためにはいろんな魅力があるだろうと。その魅力の中には、学校という組織体の中に入ったときに、その周りを囲む、要はほかの教職員の方々のサポートというか、そういったものも重要ではなかろうかという、そういう話でよいか。

委員

そうです。だから一番大事なのは教師になりたいと思う、その人の気持ちが一番大事。それをすごく大事にしていなきゃいけない。もっと言うと周りが、もう尊敬ですよ。よく選んだね、教師によくなろうと決めたね、すごいよと。そこから始まって、これから学校

で高みに一緒に上っていこうよ。みんなで上っていこうよという、すみません、抽象的で。そういうことを言いたかった。まあ、ほとんど一緒だと思いますが。

事務局

今のお話を聞いて、私も人事を担当していたので、その辺の関係も含めてちょっと話をさせていただきたい。

今、学校を支える先生方の周りの体制も大事だというお話でしたが、文科省の教員の人事行政調査の中でメンタルによって1カ月以上の傷病をとっている教員の数が都道府県別、行政市別に示されているが、山梨はこのところずっと低い。令和元年（の調査）を見ると少ないほうから2番目と割合からすると0.48%ということで、非常に少ない。委員がおっしゃったような学校なり、地域なり、そういう面で支える部分がしっかりできていのではないかと感じている。そうは言ってもまだ傷病者がいますので、そういうところを支えていかなければならない。そういう面でも人事担当が、高校は希望者になりますが、小・中学校の場合は全員と面談をして今の状況ですとか、異動の希望を聞いた中で、適材適所、自分が生かせるところを選択できるようなシステムを取っています。こういうところも先ほどの数に出ているのではないかと考えます。そういうところはいいところとして、自己肯定感の先ほどの内容と含めてお話しさせていただきたいということ、また学生さんに伝える機会はそれほどないので、何かありましたら大学の先生方も学校でのサポートがしっかりできていますというところを学生にお話しいただければありがたいと思っている。

委員

採用になったあとの人事の部分でも、それだけちゃんと一人一人の希望等を大事にしてやっているということはすごく分かりました。ありがとうございます。そういうことは大いに宣伝ができるじゃないですか。山梨のいいところ。人事って大切ですからね。分かりました。

委員

今のことと少し関連するかもしれないが、採用試験合格者への対応ということで、本県の場合は、その合格者全員を集めての説明会は1月ですよ。他県だともう今月、神奈川とか合格者全員集めて、それで3月までの宿題も出て、ICTだとかこのくらい文章作ってきてとか、もう研修がある意味始まっていますよね。意外と学生、4年生はこの時期暇で、卒業研究と教職実演習くらいしか授業がなくて、「先生、3月まで私何すればいいのでしょうか」みたいなことを言いに来る学生も合格者にはよくいる。お忙しいかもしれませんが、合格者を集めての説明会を前倒しで、もう半分、研修も入れてやっていただいてもいいのではないかと、ちょっと学生を指導して思うところがあった。ちょっと意見として、よろしくお願ひしたい。

議長

採用・人事部会いかがか。採用前説明会の前倒しという話だが。

事務局

本県では1月に採用内定者を集めて、それぞれ（採用者）の状況というのをしっかりと把握させていただきながら、適切な人事配置ができるように努めて行っている。日程をもう少し早い段階にするように、という意見だったと思うが、この段階で私が即答するということは大変難しい。いろいろな他の者と、業務との関わり等があるので、ご意見については持ち帰りをさせていただき、検討させていただきたい。「学生にとってみれば、早いタイミングであることによって、より効果が上がるというところがある」というご意見があるということで受け止めさせていただくというところでよろしいか。

議長

私も聞いていて思ったことが、われわれの業務の都合であるのであれば前倒ししていただけとありがたいと思うので、ぜひ前向きにご検討いただければと思う。

事務局

1点よろしいでしょうか。私たちが学生のときは、学生というのは社会に出る前に唯一与えられた、社会的に認められた最後のモラトリアムだというようなことを言われた世代かと思います。今、委員の先生のお話を伺うとありうることだろうと思う一方で、学生に対して、自由にいろんなことを見たり聞いたり、「自分の好きなこと今やっついて」というような、そういうモラトリアムにしたほうがいいとも思う。先生方からすると、やはり早く学生を集めて、課題を与えて研修などをしたほうがよろしいのか。どちらがより深みのある教員につながるのかというのは、皆さま方一人一人ご意見が異なってくるのではないかと思う。今、少しお話を伺ったが、もしよろしければこの辺りのお考えを伺えると私どもにとって参考になるかと思う。

議長

私たちにとっても非常に悩ましい話だということで、それぞれ個人個人、意見が違おうと思うが、何か今の話で、採用前説明会プラス研修みたいなものを兼ねてということになると思う。今は1月から始めているが、前倒ししたほうがいいのかどうかというところは、いろんな意見があると思う。先ほど私は前倒しできるならば、してもいいじゃないかと言ったのですが。ほかに今の事務局からの発言等もあれば、モラトリアムというところで。

委員

先にやるのもいいが、やり方だと思う。実は私の近所に、大学4年生がいる。あるとき畑に行きながら、「何になるの?」とか、ちょっと世間話をしていた。そしてその子のおばさんが教師をやっている。そうしたら「先生やるの?」って聞いたら、「先生嫌だよ」って。要するにブラックだから嫌だよということを理由に、そういう話をした。でも、そのおばさんからどれだけ内容を聞いているかという、ちょっと外から見て、これは大変だなと思っているだけではないか。そうすると、良さはひよっとすると耳に入っていないかもしれない。ということであれば、こういうことで守られている、こういうことがある、つまり教師としての働き甲斐であるとか、誇りを持てる話になるかもしれない。そういうものもやはり、あまり重くやると大変だから、そういう情報も入れておくことは必要じゃないか

と。そのおばさんとどういふ話をしたかというのとは分らないが、恐らくそんなに長く話はしてないと思う。ただ「夜遅くてね」とか、「大変だよ」といふ話くらいはしているかもしれない。そうであれば、正しい情報は正しい情報として早く教えてもいいのではないかと思う。決してそれは、それ以上もなくそれ以下もなく、事実を伝える。大事なことだと思う。

委員

先にやるのは構わないと思うが、ただやはりやり方であって、実は他県で受かっている学生が頻繁に呼び出されて、そのたびに授業を中断する。実は前期はかなり一生懸命受験勉強に励んでいるので、卒論をもう必死になってやって、自分の今までやってきた4年間をまとめているという最中に、あんまり呼び出しという感じでやると崩れてしまう気がする。だから例えば、さっき言ったICTならICTでもいいと思うが、こんなことをする、こんな授業を作っておいでということを課題として出していただけのならいいが、呼び出されて、そのたびに何か中断し、特に本学の場合遠くの地域から来ている学生たちが非常にいるので、そうすると帰って2日。たった1日の数時間のために3日くらいかかったりする人もいるということもあるので、出し方の問題が今あるけれども、大きいのではないかと思う。そんなこともあるので、「こんなことをやっておいたら・・・、こんなことを見てごらん」といふのを先に集めて指導していただくと、私は山梨のために働くぞという意識付けにはなると思う。

委員

結局われわれも一生懸命大学で教員になる人を増やそうと努力しているが、山梨という土地柄ですね。要するに山梨で就職するならば、別に教師でもなんでもいいところがある。一番のネックですね、マスコミ等がブラックというようなものを必要以上に宣伝すると。つまり考え方がそうじゃないかと思ひ込んでしまうということがやはり一番厳しくて、あとは教員採用の数が少ないと、先輩が教師はやめたほうがいいのではないかという情報を下級生に与えることがあって、もっとひどいことを言うと、その子の親が教師の場合、教師はやめたほうがいいのではないか、そういうことがある。問題は、やはりなるということについては本人の覚悟の問題だから、いろんな情報をもらって本人がどう判断するかという。そのためには、先ほど言ったように前にするかどうするかだけ、受かったあとは本人が不安を感じないように、そういうことを前倒して、いつ言うか分からないが、情報を提供するのはいいのではないかと思う。大学でも教職実践演習という授業が4年の後期にあって、そこでは、学校の業務以外のことを、先生とどう付き合うとか、教育相談とか、そういうのをどうするかとか、そういうことを出る前に、どういう心づもりが必要かという授業もあるので、ある程度情報がいつているのではないかと思う。ただ、山梨はこういう特徴があるとか、いい点があれば、情報発信していただければと思う。なぜかという、今回、山梨県の教育委員会から、小学校教員採用の推薦枠をいただいているうちの、1人とか2人は他県出身の学生。要するに山梨県の魅力を自分で発見している

というふうなこともあるので、委員が言うように、あくまでもその学生がどう解釈するかという問題だから、そのための情報をなるべく多く与えていただくということは意味があるのではないか、要するに自分で最後はいいところ、悪いところも把握してなりたいたいというのが本当は理想だと思う。ただ何回も言うが、いろいろな情報が拡大されたというか、ブラックだと言われると、学生がいろいろな情報を得ないままに思い込んでしまうというケースがあるので、そこは気を付けていってほしい。あとは附属実践センターで考えてくれているが、現場体験をなるべく早いうちからして、自分でどうなのかということ判断する力というのを養ってもらいたいということを考えている。だから学生さんが与えられたいろんな自由な時間の中でどう考えるかということを保証して、そのための材料を提供するというのをわれわれが考慮していくということが一番大切だと個人的に思う。

委員

ちょっと話がずれてしまうかもしれないが、ブラックな話だとか、この県に居付くかどうかという問題は、結構、今、本学は公立の小学校、中学校に、定期的に4年間見学が入っている。そうやって現場の様子を知ってみると、はっきり言うと大変じゃないわけではないが、それ以上にやりがいがあるということが分かると、それは定着していく可能性が高い。実は私はこの前に、別の地域の国立大学の教員だったが、そこでも同じような形で4年間入っていると、そこも実は外から来る学生がすごく多かった。半分ぐらいは残っていた、その地域に。ですので、やはり一つはできるだけ早く学校に入って、業務が大変ではないというのはさすがに嘘になってしまうので、しかしそれでもそれ以上の楽しみだとか、子どもたちに付き合う中で得るものがあるということの一つは明確にしていっていいのではないかと。そのために、今、この県の中でできるだけそういう機会を増やしましょうと言っていたのは、すごくいいことだと思う。

もう一つ大きいのは、今、私の地域で始めたが、地域教材を作るだとか、その地域にある教育資源を使いながら学ぶということを進めていくと、やはりいくつか大学を回ってみると分かるが、それぞれの地域の中にある教育の方法だとか、教育のよさ、山梨にしかないものはたくさんある。だからそういうものを自分で使ったり作ったりした、地域教材を作ったとか、みんなと一緒にそれをやってきた中で地域の人たちとつながったということがあると、それもその県に残る大きなきっかけになってくると思うので、今、そのように文科省は指導しているわけではないが、学力向上ということで、各教科の力をずっと上げることがやっているから、同時に本当は課題解決力というのはすごく大きな力になって、それはさっき言ったICTも実はそこ絡んでいると思うが、そうしたものを使いながら、例えば総合学習の中で、今やろうとしているのは都留ですね、郡内の織物のことをちょっとやろうとしているけれど、それを通じながら地域がどのように発展してきたのか、あるいは現在、さすがに織物は1つになってしまったためにちょっと落ちたが、代わりに都留市を見てみると、養蜂があつたり、あるいはワサビがあつたり、新しいさまざまな流れが出てきている。そういうものを見つけると、「ああ、この地域良かったよね」って、教員に

なろうと思っている子どもたちも、それからもう一つはそういう力を持っていると地域に教員が入ったとき、同じことを、僕らは小学校中心ですので、3年生、4年生、あるいは6年生をやってくれる。そうすると、中にいるとなかなか見えないことが、実は外から見てそういうものが見えてくると、地域を担う力につながったりすると思う。ですので、地域に残るだとか、地域に行って根付くということを考えると、一つはできるだけ、さっき山梨大学の先生が言ったように、早くから小中高へ入ることが必要かと。もう一つは、その地域の良さだとか、良さは限らない、困難でもいいと思う。一緒に地域の人たちとやったという、そういうことができるような教材づくりだとか、授業づくり、山梨らしさを思えるようなものをつくっていくというのが大きいのではないかと思います。

議長

ほかに委員の先生方から、何か今の話で。

委員

いろいろあるなと思って伺っていた。あともう一つ付け加えるとするならば、やはり初任になると不安なことってたくさんあると思う。なる前も不安なことがたくさんあるので、せっかく説明会で集まるのであれば、横のつながりを、同じ初任者としてやっていくメンバーだというつながりを作るような、交流ができるような形で。そして今後もその人たちでコミュニケーションを取って、つらいときには愚痴り合ったりしながら、自分を解放しながらやっていけるような説明会になっていくと非常に良いと思った。

議長

採用・人事部に聞きますが、今は教員採用試験の合格発表があったあと、最初に集まってもらおうのが1月でしょうか。その間は特に何もないと・・・。

今、いろいろな意見が出たのは、多分学校の先生になるというためのいろんな知識を蓄えてもらいたい時期でもあり、またいろいろ社会の見聞を広げる時期でもあるというところだが、ただあまりそれが負担になってはいけない。教員になろうという部分の、教員の知識を詰め込むのが負担になってはいけない部分があるが、時期としては若干早めに、ある程度目標感を持ってもらったほうがいいかもしれない、これは個人的な意見だが、そういうところも含めて検討をさせていただくという形によろしいか。

委員

要するに目的だと思う、情報発信の。山梨に魅力を感じる必要がある時期にはそういう情報を出し、教師にもう受かっている人は、不安を減らしたい場合だったらどこで情報を発信するか。その目的によって、どういう情報がいつ必要かを、検討すればいいと思う。いろいろな意見が出たので・・・。

議長

私は教員ではないが、卒業間近に外国に卒業旅行へ行き、自分の見識が広められたなどは思っている。ただし、その間に全く就職準備ができないかというところもそうでもないと思うので、そこは私どもでもまた考えさせていただくということによろしいか。

委員

すみません、本当に簡単な質問ですが、13ページのところにありました選考検査不通過者に対してメールアドレスの登録を受け付けているというところで、今週末に4年生と大学院生で不通過者を集めましてフォローアップをやるのですが、このこともちょっと紹介したいと思うので、登録方法について教えていただければと思う。

事務局

結果通知を送付させていただいたときに、その中に登録についての用紙をそれぞれの方にお配りしてあるので、活用していただける形になっている。

委員

分かりました。そのように伝えます。ありがとうございました。

議長

では続いて、報告の(3)小学校教員確保推進事業についてお願いいたします。

(3) 小学校教員確保推進事業について

事務局

資料(P20)に基づき、説明と補足説明

議長

まだ制度のすごく細かいところが決まりきっていない部分はあるが、大体骨格はこんな形です。何か今時点でご質問とか・・・。

委員

大学院生も対象とする予定と書いてあるが、はっきり言うと大学院生はかなり優秀というか、自分でそれを突き詰めていきたいと思っている子が結構いるので、逆に言うとその子は教員になりたいので、山梨だけにしか受からないということはない。ただそのときに、もしこういうインセンティブがあれば、山梨をやはり一番にしようとなるので、ぜひ大学院生も含めていただけたらと考えている。

事務局

やはり幅広く優秀な方に山梨県で教員になっていただきたいと思っているので、大学院生も対象にする予定で、今、制度のほうを照会しこれから進めたいと思っている。

事務局

既卒で先生になる方、今、働いているが、免許を持っていて教員採用試験を受けようという、そういう方も対象にしていきたいと思っている。そうするとその人たちの場合は少し条件や給付期間が変わってきたりするが、そういう方も含めて、先生になってというメッセージを県から出していきたいと思っている。

4 協議

(1) 「やまなし教員等育成指標」に基づく令和4年度研修計画について

事務局

育成部会・教員センターの資料（P 14～18）に基づき、説明

委員

過日、全国の校長会で他県の様子を意見交流する機会があった。多くの県で対面による初任者研修ができなかったことによって、先ほど委員の先生も言っていたように横の関係が全然つくれずに、かなり初任者のメンタルが心配ということが話題になりました。そこが一番の課題だということで、それをカバーするために校内で、どのようにして効果的にOJTを機能させていくかという点について意見交換された。教育センターが今年度は大変ご苦労していただいて、研究を行っていただきました。来年度以降、果たしてポストコロナになるのか、まだウイズコロナの時代が続くのかということを考えながら対応していただくことが、先ほど来、話になっている魅力ある山梨の教育とか、やりがいのある職業だという意識を育てていく上で大変重要になってくると思う。ぜひその辺は、また今後も検討していただきたい。

来年度以降の研修企画についての意見ですが、山梨県もそうですが、大量退職、大量採用になったときに、ミドルリーダー的な存在が全然いなくなってしまう。その人たちが若手を育てていく上で、どのように職場としてのOJTを機能させていくかということのノウハウを割合知らない人が多いという意見もあった。それに関連する内容を研修でやるべきなのかどうなのか、また、どの分野ですか、管理職研修なのか、教務主任（研修）なのか検討していただきたい。なかなかできるようでできていないのがOJTであるので、その辺が難しいなと思った。コロナ禍で、フォーマルな研修はできるが、インフォーマルな研修ができない。今まで、私なんかインフォーマルな研修で得たものが、教員生活の中で役立っていることが多い。そういう現実があるということをつえながら、またフォーマルの研修形態等の工夫もしていかないと、学校現場が動かなくなってしまうのではないかという危機感を、学校教育に携わっている者として大変強く感じている。この2年間の新採の様子を見ていて、昔だったらちょっと業務後の会で言えたことも言えない状況がある、これが現実でありますので、そこでくじけちゃっている人たちもだいぶいると思う。

議長

ありがとうございます。

もちろん検討していくことにはなるが、教育センターから何か。今、2点話があったが。今時点で言えることがあれば。

事務局

教育センターとしても、初任者が横のつながりをしっかり作って、同期の意識をしっかり持って、連携をしながら喜んだりまとまったりしていける、そういうリアルな初任者研修を考えている。コロナの状況等もあるが、できるだけ関わりながらの研修を中心に。また同時に遠方からセンターまで来るということで、2時間ぐらいかかる初任者もいるので、

そういった初任者にとってどういう形で実施をするのがいいのかということ、個々の研修を見ながら効果的に実施をしていきたいと考えている。

またOJTについては、いわゆる職場の中で、初任者を含めた先生方が日常の実践の中で高め合える、そういった環境づくりを現場の管理職の先生方と相談しながら、センターとしてもいろんな材料を提供する形で作っていききたいと考えている。

議長

ありがとうございました。ほかに何か、この研修の関係で・・・。

よろしいでしょうか。どうぞ。

委員

今回、初任者研修における八ヶ岳地域の宿泊研修はコロナということでできないと思うが、やはりあったほうがいいと思う。うちの大学では卒業試験をずっとやっているが、その中でよく言われるのは、同じ学校だから相談できることと、ちょっと同じ学校だから相談しづらいことがある。そのときに、こういう宿泊研修で出たことだとか、そうしたつながりでちょっと愚痴をこぼしたり、引き合いをしたりすることによって、職にとどまりたいという気持ちや、また新たにやろうという気持ちになるので、多分コロナだから難しいが、できれば今後これをやっていったほうがいいと思うので、一言言わせていただいた。

議長

センターから何かあるか。

事務局

私たちの中でもそういう声が上がっているので、また今後検討していきたいと思う。ありがとうございます。

議長

ほかに研修関係、よろしいか。

次に協議事項（２）「山梨県で学校の先生になろう」フォーラムについて、育成部会からお願いいたします。

（２）「山梨県で学校の先生になろう！」フォーラムについて

事務局

資料（P19）に基づき、説明

議長

第1回育成協議会でフォーラムについて、「できれば高校と大学生別々に」とか、「県立図書館でやってもらいたい」という意見があったが、それに対してどのような形でこうなっているのか、説明を。

事務局

会場については、図書館で参集を想定して集まりやすさ、県内の方々が集まりやすいというところで、前回、前々回のフォーラムでは県立図書館を会場としている。しかし、今

のコロナの状況等もあり、今年度も昨年に続く形でオンラインでの実施ということになる。そのため、参集ではない形で、教育センターからオンラインで配信という形を考えている。

また大学生、高校生それぞれの対象でということで前からの課題としてあったので、一つの方策として、分科会A、分科会Bでターゲットをしっかりと分ける形で行いたい。同時双方向型のものを使いながら情報交換を行っていくことを考えている。

議長

ただいまの説明について、何か質問等ありましたら、委員の先生からお願いします。どうぞ。

事務局

前回の協議会で、このフォーラムについては複数回の実施をとの声があった。私どもも検討し、今回、内容の質的に高いものを維持していく、高いものを提供するという事を考えながら、どのようにしていくのが一番いいかということで、今回は、今、説明したとおり、内容を録画・編集しオンデマンドで提供して、何度もいつでも見ていただけるように、またそれを積極的にPRしながら、できるだけ多くの方に見ていただいて、今回のフォーラムの内容、山梨の教員になることのPRを多くの方に提供できればという形でこのような形で提案させてもらった。

議長

補足説明があったが、何か質問等ありますか。よろしいか。どうぞ。

委員

これについては、もう今年はこれでいいが、山梨大学で教員養成大学に行こうみたいなフォーラムを2月ぐらいにやりたいと考えている。要するに高校生が教員養成大学に入ったらどんなことを勉強して、どのような意識を持って教員になることが大切なのかとか。また、教員養成の内容を1時間半ぐらいで、まだ執行部の中での話ですが、やろうかと思っている。もしこれを2月に実現する場合には、ぜひ県教委の皆さんに、高校生への広報でご協力いただければと。それから、これが今年結構うまくいきましたら、来年以降、学校の先生になろうフォーラムの中にドッキングすることを、検討いただければと思う。

委員

「なってみたいな『学校の先生』」ということで、高校生対象のものが今回作られている。とてもいいことだと思う。ただ高校生については、このあと教員になるためには大学進学における選択も必要になってくると思う。その部分の情報提供がなされると、より教員になっていこうという道筋が開けてくるのではないかと思うので、われわれにできることがあればという形で、この12月の会につながる形で、その続編かどうか分からないが、「やってみようよ『学校の先生』」とか、「教員養成学部を知ってみよう」とか、そんなタイトルになるのかも分からないが、高校生を対象として、大学生が今こんなことを勉強していますという、大学教員だとどうも固くなってしまっているので、なるべく年の近い者から、こん

な学びがあります、こんなことを勉強して、教育実習はこんな感じですよという話の時間が作れたらということを考えている。もし協力いただければ本当にありがたく思っている。

委員

もちろん、どんな状況だったかということは、来年度の第1回のこの会議に報告させていただければと思う。

議長

非常にありがたいお話だと聞いていたが、センターいかがか。

事務局

私どももできるだけ協力をさせていただきながら、また来年度については、相談をさせていただき、検討させていただければと思う。よろしく願いいたします。

委員

差し出がましいが、よろしく願いします。

議長

ありがたい申し出だと思う。ほかに何か質問等ありましたら。よろしいですか。続きまして(3) 教員育成指標の見直しにつきまして、事務局からお願いします。

(3) 教員育成指標の見直しについて

事務局

資料に基づき、説明

議長

この山梨教員等育成指標というのは、教員育成協議会の根っこになるところです。その育成指標に基づいて、教員の資質・能力をどうやって向上させていけるかということ、今ここで相談しているということで、いわば根拠となるものが指標です。それを今回(の指標)、その基になる教育大綱、教育振興基本計画が改訂されて、ICT等が入ってきたことを受けて、そういうところの調整をさせていただきつつ、原案的なものが出たら委員の皆さまにも相談をしながら、2月から3月の第3回の育成協議会に、見直し原案を出していきたいという話です。

今ここで質問を・・・、と言われても難しいかもしれないが、何か質問ありますか。大丈夫でしょうか。

委員

見直しはいいが、この第1回の古いものは、古くなっただけと書いてあるが、これに関する評価というか、反響というか、ここはもっとこうしたほうがいいのではないかという意見集約とか、何かそういうモニター的なものがあった上での見直しか。

そうしたら、何となくわれわれも、集まった人の感覚でもっとこれはこうしたほうがいいのではないかとか、そこは見直しの根拠はあるのか。あまりそういうことを言っちゃあいけないが、期間が迫っているからあれなのかも。その辺はどうなのか。

議長

事務局、お願いします。

事務局

まず育成指標につきましては、今回、用意をしていない。申し訳ありません。第1回の育成協議会のときに配布しているの、また目を通していただければと思う。

この見直しの根拠ですが、一つには、明らかにちょっと古い資料。平成29年なので、新学習指導要領の方向性が見えてくるころだったが、一部書きぶりがかなり古いものがあるということで、そここのところを変えなければならないという話でしたが、実は育成部会を中心に9月から見直し案を検討する中で、やり始めるとどこまで広げていいかどうか、そういうところも検討課題になったので考えていく。どこまでするのかということも考えたりしながら検討を進めるということで、また委員の先生方にもこういうところがあるので、確認し始めると際限がなくなってしまうので、こここのところに合わせたほうがいいというラインのところにするのか、せつくなのでここまでやったらいいのかということなどの意見もいただきながら進めていきたいと、今意見いただきながら考えている。またご連絡させていただきながら、進めていきたいと考えている。

委員

すいません、余計なことを言いました。

議長

よろしいですか。どうぞ。

事務局

補足です。この教員等育成指標は、教育振興基本計画のように5カ年計画なり10年計画でここまで達成しましょうという性質のものではなく、それぞれの県の状況や課題を見ながら、どういう教員としての資質を育成していくのかという、一つの考え方を示しているもの。これを基に総合教育センターの研修を構成していく形で活用している。県の総合計画や教育振興基本計画では、実際にそれに紐づく事業などがあって、その事業がどれだけ達成できたのか、達成していないのかといったことを評価しながら見直しなどの改訂を進めていくが、今回の育成指標についてはそういうやり方ではなくて、今の教育事情が変わってきていることを受けて、どのような文言で修正すべきかという視点で十分検討させていただき、委員の先生方の意見をいただきながら修正を探っていこうという考え方で進めようということ考えているところ。

また折々先生方に連絡をしながら、説明等をしていきたいと思っているので、よろしくお願いたします。

議長

ほかはよろしいでしょうか。

それでは協議が全部終わりました、協議の（４）その他。

委員の皆さまから何か議題があれば、よろしいでしょうか。

それでは、以上で本日の協議を終了します。

長時間にわたり熱心なご議論、ご意見いただきましてどうもありがとうございました。

５ 報告・連絡

事務局

次第に掲載されている内容に基づいて報告・連絡。

６ 閉会